

行動分析学の理論的枠組(2) オペラント

佐藤方哉

(慶應義塾大学)

キーワード: オペラント行動の分析単位・オペラントの定義・オペラントの種類・理論的行動分析

目的

行動分析学の理論的枠組は三項随伴性であることは自明であるが、それ以上の詳細は必ずしも確立されているとはいえない。

私見によれば、ラットやハトによりオペラント行動の基本的制御変数を同定する作業はもはや完了し、これからはヒトの日常場面におけるさまざまな行動の分析に努めねばならない。そのためには、三項随伴性を基本としながらも、より細部にわたった理論的枠組が必要とされる。

このような見地から、今回は、前回の弁別刺激に引き続き、行動の単位としてのオペラントの理論的分析を試みる。

理論的分析

オペラントの定義には次のようなものがある。

Feister & Skinner (1957) の定義: 強化随伴性によって規定される行動の単位。(中略) 一定の条件下で等しく強化を得ることができるすべての成員からなる反応のクラス。

Thompson & Schuster (1968) の定義: 特定の強化随伴性によって規定された一定の反応クラスの成員。

Rachlin (1970) の定義: ある共通の効果をもつすべての反応。

Powers & Osborne (1976) の定義: その結果により制御されている反応のクラス。

Johnston & Pennypacker (1993) の定義: 共通の環境的效果のクラスとの機能的関連によって規定された反応のクラス。

多くの定義で用いられているクラス(class)という語は、「共通の性質をもつものの集まり」という意味である。したがって、これらの定義から、オペラントとは、強化随伴性あるいは結果ないし効果が等しい反応の集まりということになる。この「強化随

伴性あるいは結果ないし効果が等しい」ということをどのレベルでとらえるかにより、分析の単位としてのオペラントには、少なくとも以下の4種類が区別されねばならない(表1)。従来、主として実験的に分析されてきたのは、特定強化子特定弁別刺激的オペラントのみということができよう。

1. 特定強化子特定弁別刺激的オペラント: 例えば、コーラの自動販売機を操作してコーラにより強化されるオペラント。
2. 特定強化子超弁別刺激的オペラント: 例えば、コーラにより強化されるオペラント。自動販売機を操作したり、喫茶店で「コーラ」と言ったり、冷蔵庫を開けたりなどのすべて。
3. 超特定強化子特定反応対象性弁別刺激的オペラント: 例えば、自動販売機操作オペラント。
4. 超特定強化子超反応対象性弁別刺激的オペラント: 例えば、般化模倣オペラント、ルール支配オペラント、マンド等。

表1 分析単位としてのオペラントの種類

オペラントの種類	焦点	主要制御変数
特定強化子 特定弁別刺激的	三項随伴性	確立操作・ 反応対象性弁別刺激/ 反応確率制御性弁別刺激
特定強化子 超弁別刺激的	強化子	確立操作
超特定強化子 特定反応対象性 弁別刺激的	反応型	反応対象性弁別刺激
超特定強化子 超反応対象性 弁別刺激的	高次 オペラント	オペラント指定性 弁別刺激

(さとうまさや)